

Doctor's Voice

テーマ:便失禁

〈提供〉
イノバセル株式会社

便失禁は治療で改善できる症状! 諦めずに近くの肛門科へ



社会医療法人社団高野会
くるめ病院(久留米市) 院長
野明俊裕 先生

「便失禁とは、例えば、物を持つと力を入れた時や、急に便意をもよおした時になど、トイレ以外の場所で意図せず便が漏れてしまう症状です。無意識に肛門を閉じている肛門の内側の筋肉と、いざという時に肛門をギュッと閉める肛門外側の筋肉(肛門挙筋など)、排便を調節する2つの「肛門括約筋(かつやくきん)」が、うまく機能せず起こります。便失禁には、主に2つのタイプがあります。ひとつは、便意に気付かず漏らしてしまう「漏出性便失禁」。加齢により内・

外的肛門括約筋が弱まることで起こります。70代以上に多い症状ですが、60代、50代でも増えています。もうひとつは、便意を感じるものの、トイレまで間に合わないという「切迫性便失禁」。こちらは出産時の損傷や、痔などの手術で肛門の一部を切除した人に起こることが多いようです。他にもさまざまな原因がありますが、1日何回も漏れるようなならなおさら、週に1回以上漏れるような方でも治療の対象になることが多いですね。

食事や薬で改善の可能性大 諦めず専門医で受診を

肛門科の問診では、便失禁の重症度を表す「グリーブランド・クリニック」提唱のスコアを付けることが多いです。便の状態や出産・手術の経験など、排便に関する状況も確認したら、カテーテルで肛門を締める力や直腸の便に対する感度を調べる「直腸肛門内圧検査」や、便がたまり過ぎて漏れる方には「排便造影」という検査、筋肉の損傷を調べるためのエコー検査など、状態に合わせた検査を行い、多角的に診断します。

実際は漏れていないけど、便意があるので心配で仕方ないという人も治療対象になります。診断後は、まず食事を

気が付かないうちに、あるいは意図しないときに便がもれてしまう「便失禁」。「年だから…」と諦めている人も多いようですが、実は治療ができる病気なのだそうです。

「くるめ病院」院長の野明(のあけ) 俊裕先生に聞きました。

その原因の多くは「加齢」 誰にでも起こりうる便失禁

「便失禁とは、例えば、物を持つと力を入れた時や、急に便意をもよおした時になど、トイレ以外の場所

便失禁でお悩みの方 治療参加を募集しています。

治療依頼者:イノバセル株式会社

治療にご興味のある方は、まずはアンケートにお答えください。 [こちらから…](#) [便失禁 アスボ](#) 🔍 検索

